

「若者と県議会との意見交換会」の概要

〔日 時〕 平成28年9月26日（月）13：30～16：06

〔場 所〕 岩手県議会 議会棟 大会議室

〔話題例〕 「選挙権年齢引下げと県政（県議会）への関心について」

〔参加者〕 （8名）

藤 井 望（岩手大学 教育学部 学校教育教員養成課程 1年）

近 藤 颯（岩手大学 工学部 社会環境工学科 4年）

高 橋 ゆずは（岩手大学 理工学部 システム創成工学科 電気電子通信 1年）

井 上 孝一朗（岩手大学 人文社会科学部 地域政策課程 1年）

前 川 美 里（岩手県立大学 社会福祉学部 人間福祉学科 1年）

内 田 祐 貴（岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科 4年）

三 輪 夢 来（岩手県立大学 総合政策学部 総合政策学科 2年）

川 原 直 也（岩手県立大学 総合政策学部 総合政策学科 3年）

〔出席議員〕 （6名）

福井せいじ議員、名須川晋議員、菅野ひろのり議員、佐々木宣和議員、千葉絢子議員、
田村勝則議員

〔オブザーバー議員〕 高橋但馬議員、軽石義則議員、阿部盛重議員、ハクセル美穂子議員、
工藤大輔議員、吉田敬子議員、臼澤勉議員

〔事務局職員〕（12名）

◆ 参加者自己紹介及び現在の業務や活動状況の紹介

○藤井さん

自分は19歳だが、今回（平成28年7月10日投開票の第24回参議院議員通常選挙）、初めて選挙に参加した。選挙に関しては、高校の最後に少し授業で取り上げられ、大学の授業では模擬選挙をしていたため、不安は少し解消されていた。だが、どの方に入れればいいのかと自分には難しく感じている。岩手大学の学生議会の運営委員会で、この機会に話し合った。有権者の方の話聞く機会があった。もっと話を聞く機会があればいいと思う。

選挙を終えて、自分なりに待機児童や教育の問題を考えてみたが、終わった後に気づかされることがあった。もっと調べておけばよかったと思った。18歳から投票できるのはすばらしいことだと思う。県議会については、自分にはあまり縁がないものと考えていたが、もっとこういう機会があれば県議会を身近に感じることができると思う。

○近藤さん

選挙権の引き下げについて、自分の言葉ではないが、勝ち取ったものではなく与えられたものと言われている。確かにそのとおりと思う。先日、岩手大学で選挙啓発の活動をし、10人くらい集まった。半分以上が18、19歳と、今回初めての選挙権を持つ方々。若者は関心が低いと言われながらも、集まってくることに驚いた。世代間の問題ではなく、個々人の問題だと思った。

政治が難しいとの印象は皆が思っている。政治とは何か、幾とおりの答えが返ってくると思う。生活、税の配分、安全保障と、それらは全て政治であって、皆が自分で入り口を見つけるといことが大事だと思う。自分は、専攻の土木、そこから政治に興味を持った。各々が自分の入り口を見つけて、他との関わりを考えていくことが投票率の向上につながると思う。

若者の投票率が低いことは言われて久しいので、自分たちの世代の問題ではなく、若い人の問題であり続けている。それだけ難しいことだから、年を経て、勉強しないと興味を持ってないと思う。若い人の投票率は永遠に上がらない気がする。

県政はメディアでも取り上げられないため、知ろうとする機会がなかったが、今回初めて、建物を見せてもらった。岩手県はお金がないと言われている中で、よく言えば立派な建物、悪く言えばぜいたくなのではないかと思う。

○高橋さん

学生議会運営委員会に入っている。代議員を集めて、予算や決算を話し合い、学生議会を運営する団体で、グループ内でグループリーダーをし、話し合いを円滑にするため活動したが、人と話し合ったり、意見をまとめたりするのは小さな団体でも難しいと感じた。政治は複雑に絡み合っている、どこまで難しいのだろうと思う。

今回初めて選挙に参加した。申し訳ないが、あまり事前情報を集めず、イメージだけで決めてしまった。その時になって後悔した。自分のようにイメージだけで選ぶ人もいると思う。今回、意見交換会に参加することになって、はじめていわて県議会だより（広報紙）のことを知った。外からの情報があっても気づいていない人が多いのでは。今度の選挙で後悔しないために、このような機会が後で生かされるといい。

○井上さん

選挙権年齢の引き下げはよかったと思う。前から政治に興味があったので、やっと自分も一票を投じられる。大学で啓発活動をしたが、ある程度興味があれば調べるが、興味がないとそれなりに動機づけることが大変である。啓発用のティッシュを配ったが、無関心の人を動機づけて、一票を投じるという流れに乗せるには、大学生からやってもあまり効果がないと思う。小学生のときに勉強していれば、小さい時から積み重ねることで投票する方が増えると思う。

廃品回収などの地域活動に議員の方が参加し、一緒に活動できれば関心を持てると思う。被災地でボランティア活動を行ったなどと、フェイスブックやツイッターに載せてもらえれば、立派だと思える人も出てくる。そうなる自分も関わりたいと思うようになる。

フェイスブックなどで情報発信いただければいいと思う。きょうの県議会(テレビ番組)など、情報はいろいろ出していると思うが、今の若い人にはあまり浸透していない。違った糸口があればいいと思う。

○前川さん

学校の授業でリアルタイムの政治を学んだ後に選挙へ行けばいい。大学や短大に通っている学生はいいと思うが、18歳で働いている人もいる。そうした方々は学校で学ぶ機会がないと思う。例えば、地域の公民館などで選挙の勉強会を開いてもらうのもいいかと思う。義務教育の段階で教育した方が、18歳になるときに政治に対する理解が深まった段階で選挙に行けると思う。そういうことをやることで、今の20歳の方々より、子供たちの選挙に対する理解が高まり、投票率が高まるのではないかと思う。

選挙の後で、投票して何が変わったのか具体的に知らないと、年齢を下げたというだけでは投票率のアップにはならないと思う。

自分は釜石市の鶴住居出身。高校は大槌町に通っていて、大槌町では役場解体の問題があったが、自分の高校が解体の時期を延ばしてほしいと意見を提出した。その影響もあってか、解体の時期が延びたのだが、いいのか悪いのかわからない気持ちがある。町の決定を変えてしまったという責任感を感じてしまった。それが初めての政治参加となった。

○内田さん

個人として政治的なものを感じていることだが、全く知らない、見えない部分が多い、言い方が悪いが、怪しい、触れづらい、そうしたことに取り組んでいる人も何なのだろうと。だが、この場にいらっしゃる方の何名かとはフェイスブックでつながっており、日々の活動を見ると、沿岸に行くなど、泥臭く足で動いて活動されている。かっこいいと思った。

若者も政治を知らなくてはいけないという思いはある。知らなくてはいけないが、学校では教えてくれない。怒られるわけでもないため、逃げている。必要に応じて情報を手に入れたい人は動いているが、若者の中でも二分化されている。今日の意見交換会はおもしろい取り組みと思う。

自分では総務省主催の啓発活動を受託開催した。盛岡市中心の高校生が、参議院選挙で出馬している人の公約は大人向けに行っているのだからわからない。高校生にもわかりやすく、政治とは何をするのか、自分たちにどういうメリットがあるのか、アジェンダとして立ててもらい、インターネットで公表したり、実際に意見交換したり、SNSで高校生が自ら情報発信したり、駅前投票しましょうなどと啓発活動をしたりした、「FAB選挙」という取り組みがあった。それを見て他の高校生たちも同年代なのにそんなことやっているんだと感化される。高校生とか、本気な若者が呼びかけることで社会に影響を与える。

ただ、問題として、学校とか先生によっては、そうした生徒の動きに対して一貫性がない。学校によっては生徒が政治に関わることを禁止する文書を各家庭に送付したり、先生によっては、いいことと思うから法律に気をつけてやってくれと言ったり。平等に見てもらえる大人のサポートを広げながら、同年代に広げてくれる人を増やしていくことが、若者の政治参加につながると思う。

○三輪さん

選挙権年齢の引き下げは賛成である。理由は、若いうちから政治意識を高めることができ、これからの社会をつくっていく自分たちの声を反映させることができるから。例として、奨学金の返還が問題となっているが、就職難で収入が減っている中での厳しい取り立てや、そのために自己破産する人の問題を解決できるのではないかと思う。

しかし、18、19歳は有権者全体に占める割合はごくわずか、本当に声が届くかわからない。また、岩手県では高齢者の介護と子育てに関する政策が多いように感じる。

選挙権を持つことで、政治に興味を持つ必要があると思う。政治に興味があれば、学校や親の話聞いて議員を選ぶので、自分で考えて行動できる学生にならないと思う。大学の授業の一環で、議員について学ぶ機会であるとか、県政について学んだりして、グループワークなどをやるカリキュラムがあればいい。

県政に関心を持つためには、議員の皆さんに、若者が使うSNSを有効に使って、わかりやすく情報発信してほしい。できれば大学訪問も議員の皆さんに行っていただいて、自分たちに近づいていただければと思う。

○川原さん

大学に入ってから、東日本大震災や熊本地震など、災害が多いところにボランティアに行ってきたが、よいか悪いかは別として、災害は、若い人が自分のまちを考えるきっかけとなっている。岩手県でも高校生のうちから考えている。若い人たちが社会に出て活動している方がすごく多く、若い年代から投票できることはいいことと思っている。

公立大学でも期日前投票ができる。投票する人もいるが、どうしたらいいかわからない人もいる。期日前投票について、高校生のうちに勉強する人もいるのかもしれないが、友人に聞くと、選挙の日に自分の近所の投票所に行くことしか知らない。大学生になってから、勉強をし直すの

も必要と思う。

友人に投票するきっかけは何かと聞くと、顔写真という声もあったが、公開討論会に行った学生は、自信をもって、この人にしたと言っていた。若い人たちが、直接、議員の方と話をする、しないでは違うと思う。インターネットでの公開も必要であるが、直接会う機会をつくって、今日は8人だが、大学で県議会ツアーなどを行い、県議会とはこういうものだとしてもらえればおもしろいと思う。

◆ 意見交換

○田村勝則議員

橋本左内の言葉に15歳で稚心を去るとある。肝心なことがわからないことが稚心。今の皆様の話を聞いて成長していると思った。

先般、東北子どもまちづくりサミットが仙台で行われ、大震災で被害にあった山田町、陸前高田市、石巻市、福島県を中心に、熊本県からも80人が来て、仙台国際センターで意見交換を行なった。やはり災害があってから、自分のこととしてまちづくりを考えるようになったと。そういう意味で、選挙権年齢が18歳からとなったことは非常にいいことと思う。

ただ、地域とすればそうした話も出てくるが、基本は家族でどんなことを話しているかということと思う。アンケートを見ると親の意見を尊重したという意見が多い。皆さんは、家族でどうい話をしてきたか。

【回答：内田さん】 ない。親はあまり政治に関心がない。投票には毎回行っている。行きなさいという話はあるが、家族の中で、この人がいいという会話はな。自分で調べて投票している。

○福井せいじ座長

今回の選挙に関わらず、今まで政治、社会、新聞の話題などを家族で話したことはないのか。

【回答：藤井さん】 年金とか、わからないことが多いので、公務員の父と、憲法やニュースの話をしている。ただ、選挙は仕組がよくわからないが自分なりに考えて投票している。親に教えてもらったことはない。

【回答：井上さん】 ニュースを見ているとき、わからないことを聞くことはある。政治のことは、新聞とか広報で公約などを書いているものを渡されて、読んでみたらと言われるくらい。小学校のときに、投票所へ連れられて、投票しているところを見たことはあった。

○福井せいじ座長

選挙権年齢の引き下げについては話題にならないのか。

【回答：高橋さん】 選挙権年齢が引き下げられたから、個人としては、投票に行くようにしようと義務感はあった。実際に誰に入れるかは自分で調べて自分で決めなさいと言われた。

○田村勝則議員

家族が大事かと思ったのだが、皆さんは自分で判断している。それはそれでいいと思う。

○千葉絢子議員

うちの家族の場合は、小さい頃、ニュースを見て母親からどう思うのかと聞かれると、自分の意見を話さないといけない、そういう家庭だった。大学生から政治のことを学ぶのは遅いとの声があったが、それを学校で学ぶのが正しいのか、それとも家族なのか。自分は家族の中の会話が政治の入り口だと思う。中学校3年生の受験期に、55年体制崩壊のニュースを見たことが、政治に関心を持つきっかけになった。新聞やテレビのニュースに対してどう思うのか、家庭教育の入り口の一つなのかと思う。

若い人たちの投票率を上げるための考え方はいろいろあると思う。与えられた選挙権とおっしゃった方がいたが、義務だから行かないといけない、もちろんそれもあるが、なぜ投票に行かなければいけないか、地域をつくっていく一員であることを、大人が説明しないといけないと思う。皆さんが大人になるまでにどれくらいの税金が使われてきたかを教えるべきである。そうすれば、自分は政治に関係ないとは言えなくなると思う。

政治家は何をしているのか、選挙で投票したら終わりではなくて、テレビでは、日曜討論であるとか政治家が出演する番組がある。では県内ではどうか、地方議会でそういう場所はあるか。県民にとって身近なはずなのに、誰がなっているのかわからない、どんな考えを持っているかわからない、そういう現状でいいのかと思う。大事な政策とはなんなのか、例えば地方議会であっても、もう少し真剣に考えるべきと思う。

【回答：近藤さん】考えが一致するところがある。55年体制という話があったが、自分は、政局、歴史がおもしろいと思っており、この四半世紀で一番おもしろい政局だと思う。そのように歴史から興味を持っていくという例もあると思う。

学校で教えるより家庭でという話があるが、学校で政治を教える場合、果たして中立的に教える方法があるのかやれるのか。教える側がどちらかを支持している場合もあり、中立の教育ができるのか。中立に教えようとする、政治学、民主主義の制度であるとか、学問の方が強くなる。例えば、経済政策に関して経済学的に正しいかどうかは議論になるが、政局や政策について政治学的に正しいかどうかは議論にされない。学問としての政治学と実際の政治は乖離があるのではないか。家庭内での教育がウェイトを占めると思う。

だが、実際、家庭で政治を語れないのは、(知識があっても)本質を見抜けない親が多いからだと思う。年上だから語れるというわけではない。個人に教養をつけていく、学問をしっかりと、教養人を育てるのが大事だと思う。

○福井せいじ座長

視点を変えて、岩手県をどうしたらよくなると考えるか。

【回答：井上さん】自分が住んでいる地域では子供が少なくなっている。高齢化が進んでいる中で、どのようにまちをつくっていくのか。高齢者は、あまり消費も多くない。高齢化が進むと市が赤字になっていくというイメージがあるため、若い人たちが増え子育てなどでもう少しお金を使うようになれば、市の財政も黒字になるのかと思う。高齢化が進む中でどうやって赤字を黒字にするのか、子供をどうやったら増やしていけるのかということを考えていきたい。

【回答：三輪さん】自分たちの意見が通らないと、まちをよくしていくことはできない。自分たちが子供を産んだとき、子育てができなかったり、職場がなければ岩手県から出て行ってしまっているので、県には職場を増やしたりすることをしてほしい。

自分たちでも、どうすればまちがよくなるかという考えを話すことができれば、議員の方も政策を考えてくれると思うので、具体的にどうしたいということはないが、もう少し自分たちの考えを大人たちに話をしていければいいと思う。

【回答：前川さん】震災後、県外からボランティアの方が被災地にたくさん入ってきている。沿岸と盛岡市ではだいぶ違う。小さい時は、周りに大学もなく、学生がいるとも知らなかった。震災後に、学生のボランティアが入ってきて、この辺では会うことがないような方に出会う機会が多くなった。視野が広がった。

関東の大学に進学した同級生で、卒業した後は戻ってきたいという方も何人かいる。震災があつてよかったとは言わないが、地方では触れることがないような職業を見せてもらい、そういう職につきたいという人が増えてきて、都会に人が流れるのを防ぎたい。東京でなくともこちらで夢がかなえられればいい。

○佐々木宣和議員

今回、初めての18歳選挙権ということでいろいろなイベントがあり、自分が20歳の頃と比べると羨ましいと思う。18歳選挙権の第一世代である皆さんがこれから投票率を上げるために若い世代を引っ張っていけるような存在になっていただければよいのではないかなと思う。これまで、政治との距離感、入り口を個々人がどう見つけるかというお話があつた。議員になって、周りから議員は何をやっているのか聞かれることが多い。政務活動費の問題などがあり、議員個人ではなく、議員という職業自体が一般的にマイナスのイメージを持たれることが多いと思うが、どのようにイメージを改善していけばよいと思うか、お聞きしたい。

【回答：藤井さん】イメージが悪いというよりは県議会について何も知らないことの方が大きい。県議会って何をしているところかわからないし、議員がどういった方々かなかなかイメージがわからない。

【回答：高橋さん】報道などで話題になることはマイナス面に限られるので悪いイメージが大きくなるものと思う。議員の方々が普段何をしているのか漠然としていてわからない。選挙のときも、候補者の名前と所属している党派しか説明がなく、どういう人で何をしているのかわからなかった。

【回答：内田さん】県議会という存在は知っているが、例えば震災復興のため、個々の議員が何をしているのかわからない。議会は皆さんで話し合つて決めるところなので、個々の議員が具体的に何をしたということはないのかもしれないが、例えば自分たちのまちづくりに議員が賛成してくれたといったイメージが見えると、直接会わなくても距離は近くなると思う。

○佐々木宣和議員

議員になってみて初めてわかつたのは、政治判断とはAもBも正しく、その中で自分はどう関わりどう決断に至るのかということだった。改めて、政治とは難しいものだと思う。

○菅野ひろのり議員

人口減少で、岩手からどんどん人がいなくなっている中で、皆さんはこれから就職を迎えると思うが、就職で岩手に残りたいと思うかどうか。岩手に残りたい場合、岩手の魅力ないし理由は何か。また、他の地域に行きたいということもあると思うが、その場合、岩手に足りないところは何か。

就職をキーワードに皆さんはどう感じているか。

【回答：近藤さん】自分は大学で地質学を専攻しており、地熱について勉強したいと思っている。岩手に地熱の有名な会社があり、いいなと思っている。選択肢として岩手に残りたいという思いもあり、自分は幸い岩手に希望の会社があるが、周りの人を見ると、岩手に就職したい業種、しかも大卒の就職先が少ないと感じている。また、東京には、一流の人、企業が集まっているというイメージが強く、働くのであれば一流の中で働きたいという思いもある。岩手には親戚もあり、縁が強い場所なので残りたいという気持ちはあるが、40年働く会社を選ぶ上では、大きい会社で研究をしていきたいと思う。

【回答：川原さん】若者に地元の魅力をどう感じてもらうかということについてだが、自分は大学に進学するまで、普通に学校に通い、部活動をし、帰ってご飯を食べるという生活を送っており、正直、考える機会がなかった。与えられるのではなく、若い人が自分たちでまちのことを考え、自分の地元を誇り、魅力を感じることを地元に残る上で必要な条件で、そうした魅力を自分から感じ取れる場所づくりが必要と思う。いわて希望塾で中学生が集まって話し合いアクションプランをつくる取り組みがあり、自分もサポーターとして参加した。つくったアクションプランの一つでも実現できればいいが、残念ながらプランをつくることで終わっている。県内の中学生が2泊3日に渡り参加し、岩手のために頑張ろうというモチベーションがあったと思うが、その後プランは実現されず、何のために話し合い、プランを模造紙にまとめたのかわからず、中学生がかわいそうに思う。若者が自分もまちづくりの一員になっていると自覚できる場所づくりが大切だと思うし、若者だけではなかなか難しいと思うので、サポートしていただければありがたいと思う。

○菅野ひろのり議員

自分も、高校は盛岡で、大学は北海道、東京へ就職し営業を経験した。先ほど近藤さんがおっしゃったように、若い方は一流のところで仕事をしたいと思って東京に行く。でも東京で就職すると戻りづらくなる。実際に岩手とは所得水準も違い岩手に戻ると生活できなくなる。県議会でも県でも若者に岩手に残ってもらう環境をすぐつくることは難しい。県でも若者が残っていただけるようないろいろな支援対策を実施しているが、直接我々や若者が身近に感じることは少ないと思っている。本日御参加いただいた学生の皆さんは政治に関心のある方々であると思うし、様々な活動をされているということなので、まだ関心のない方々に対してもSNSなどを活用して啓発してほしいし、我々も努力したい。

○名須川晋議員

今回選挙権年齢が18歳に引き下げられたが、被選挙権年齢についても18歳なり20歳なりに引き下げられるべきという発想が皆さんにあるか伺いたい。自分は、20代で市議会議員となった。当時は、市議会に20代の感覚を持ち込む必要があると感じ、今でいうIT、当時の言葉でいうニューメディアについて市議会で発言できるのは自分だけだったし、そこに自分の存在意義があると思っていた。皆さんも、被選挙権年齢を引き下げて自分もやってやろうという発想はあるのかお聞きしたい。

【回答：高橋さん】学生議会が主催した企画において、学生から被選挙権年齢の引き下げについても考えるべきとの発言があり、なるほどと思った。選ぶ側の年齢については話題にされても選ばれる側の年齢についてはほとんど話題に上がっていないと思う。若い人はフレッシュで当選しやすいかもしれないが、自分は被選挙権年齢の引き下げはいいことだとは思っている。

ない。選ぶ側の選択肢が増えることはいいことだと思うが、選ばれる人はきちんと働いて歳を重ねて学んでいて多くの人から認められる人であってほしいと思う。仮に被選挙権年齢を18、20歳まで引き下げると働いて間もない人が当選する可能性があるので、被選挙権年齢の引き下げは一概にいいことだとは思えない。

○名須川晋議員

男女の割合や年齢層など議会の議員構成も社会の構成どおりになれば、つまり、若者の議員が増えれば、例えば土木費が減り、社会保障費が増えるなど予算の使途も変わるし、若者向けの施策も出てくると思ったので、被選挙権年齢の引き下げについて、問題提起した。

【回答：近藤さん】例えば27や28歳など20代の方が多く公職選挙に出馬しているならば、選挙権年齢を引き下げればより若い方が出馬できるようになるかもしれないが、現状として被選挙権の年齢制限が若者の選挙出馬を妨げているとは思えない。公職選挙に出馬する際の供託金や経済上の要因が大きいと思う。被選挙権年齢を下げたからといって若者がより直接政治に参加するようになるとは思えない。

○名須川晋議員

政治家が何をしているのかよくわからないという声があるが、都市部では学生をインターンシップで受け入れて就業体験と併せて政治家と近くで接する機会を設けているところがある。岩手でもそのようなものがあればいいと思うし、本県議会では10月から決算を審査する定例会が始まるので、ぜひ、議会に傍聴に来ていただければと思う。

○菅野ひろのり議員

初めに話題のあった学校教育に関することについてお聞きしたい。前川さんから、学校でリアルタイムの政治の話を書いたかというお話があったが、一方で、学校教育で政治的中立を維持することは難しいという御意見もあった。自分はそもそも中立ということは難しいと考えているが、高校などの学校教育でもっと政治を身近に感じられるためにあればよいと思う授業、企画があれば教えていただきたい。

【回答：内田さん】そもそも家庭の中で、親も政治のことを知らない。自分たちも知らないまま大人になり子供ができると自分たちも子供に教えることができず、悪循環になる。家の中でそういう勉強や教養のことを教えることのできる家庭は少ないと思う。学校やNPOなど第三者が補う必要があると思う。学校では教師が政治的中立を維持することは難しいと思うので、政治を専門的に扱い社会的にも公正と評価されているNPOや議会などで政治と身近に関わっている方々が各学校を訪問して特別授業などで教える機会が1回でも2回でもあれば、政治について興味を持つ機会になると思う。

○田村勝則議員

先にお話しした、東北子どもまちづくりサミットを開催したセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンという団体は、災害に遭った子供たちをサポートしているが、その活動を通して何もしゃべれなかった子供たちが人前で堂々と話すことができるようになったことに自分はすごく刺激を受けた。このような活動は本当に大事だと思う。

ボランティアなどに携わるとわかると思うが、政治というものは非常に複眼的なものであり、そういうものに関わる機会を我々自身がつくっていくのも大事だった。私もフェイスブックなど

で発信していきたい。

○菅野ひろのり議員

先ほど県議会議員に学校に1回でも2回でも来ていただきたいというお話があったが、教育機関における政治的中立性の問題やこれまでのルールを重要視する向きがあり、実現は難しい現状であると思う。しかし、実現すれば、政治を身近に感じてもらえ、直接政治家の言葉を聴くことができ、または、自信を持って投票する候補者を決めることができるといったメリットがあるとすると、ユーザーファーストではないが、実施した方が実は正しいのではないかと思うことがある。そこで、県議会議員に学校に来てほしいという声は実際にあるものかどうか、伺いたい。

【回答：藤井さん】 先の参議院議員選挙では、新聞やインターネットの情報だけで投票先を決め投票してしまったことを後悔している。選挙が終わって、直接候補者の生の声を聴けば投票先が変わったのではないかと思う。教育の場における政治的中立性も大事だが、それよりは政治家の生の声を聴くことを優先した方がいいと思う。文字の情報だけでは足りない。自分から聴きに行くことも大切だが、できれば、本日の意見交換会のように知る機会をいただくことができればいいと思う。

○田村勝則議員

先般、私の一般質問に50名の公務員専門学校の生徒の皆さんが傍聴に来ていただいた。全員から感想をいただいたが、「大変勉強になった」との多くの感想があった。いつでも傍聴できるので、皆さんにもぜひ議会を傍聴しにお越しいただきたいと思う。

○千葉絢子議員

これまでの皆さんのお話を聴いて、やはり、政治家は特別視されていると感じた。自分は大学で学問としての政治を勉強したが、それは政治史のようなもので、現在世の中でどのような政策が必要とされているかというところまで踏み込んだものではなかった。当時の教授に、メディアというものは映像泥棒で、政治家というものは他人の前で自分を褒める破廉恥な仕事だと言われて驚いた記憶がある。震災や台風災害後のボランティアなどの活動を通じて自分たちがこのまちを変えるんだ、自分たちが動かなければこのまちはよくなると思うことが政治の入り口だと思う。しかし、長年選挙や政治に携わっていると、政治家の哀しい性で、しがらみなどがいろいろと出てくる。そういったマイナスの部分が報道され過ぎて、若い人が政治に対して尻込みしてしまうし、参入しようとしても供託金や選挙費用など実際にはお金がかかり、20代の人が自力で選挙に立候補することは絶対に難しいと思う。そうすると、政治の未来を考えたときに20年後、30年後に果たして若い人はどれだけ政治に関心を持っているのだろうかという危機感が私にはある。ヨーロッパやアメリカの議会では、議員専業という議員はほとんどいない。日中は何か生業を持ち、終業した後、夕方6時から8時までの2時間でボランティアのような形で本会議を行っている地方議会もある。どのような議会が望ましいかは民主主義の過程で選ばれていくと思うが、議会改革や政治改革はいずれ必要になってくるのではないかと思っている。皆さんには、自分たちはこういう未来を創っていききたいと思う気持ちを大切にしてほしいと思う。政治的無関心の一番の原因は、私たちを含め、近現代史をきちんと習ってきていないことだと思う。政治的中立と言われているが、日本の現代社会がどのように成り立ってきたか、それを海外に説明し、逆に、「日本はこういう国で戦争をするしない含めて今いろいろ議論されているが、では日本人としてあなたの考えは」と聞かれたときにきちんとした根拠に基づいて話すことができるような日本人をつくっていくことが政治や教育だと思っている。ぜひ皆さんも本日この場に参加したことをきっかけに説明することのできる人になっ

てほしいと思う。また、政治家の演説も聴き、SNSなどの発信も見してほしい。私は、声の仕事をしているので、やはり生の声が一番大事だと思っている。政治家も自分の考えを聴いてほしいと皆が思っている。ぜひ、自分の目と耳で確かめて、選挙では本当に未来のことを考えている政治家に投票してほしいと思う。

◆ 感想など

○福井座長

最後に、皆様から本日の御感想や本県議会に対する御要望など一言ずついただきたい。

○川原さん

自分は総合政策学部にも所属しており、本来は政策などを勉強しなければならないが、本日、皆様から様々なお話があり、まだまだ自分は勉強不足だと感じた。今後、もっと勉強していきたい。

○三輪さん

私は、高校では理系のコースに所属していたので、政治に関わる機会がほとんどなかった。高校のうちからもっと政治について勉強したかったと感じた。また、政治学の勉強をしているが、現代の政治というよりは、過去の政治の話ばかりなので、現代の政治についてももっと授業で教えてもらいたいし、教授から話を聴くようにしたいと思う。

○内田さん

議員の方とざっくばらんにお話することができてすごく楽しかった。僕らの声を聴いてもらえたことは嬉しかった。今後皆さんに負けないように頑張りたい。またこのような機会があれば、参加したい。

○前川さん

今日は、自分が発言することはもとより、皆さんの御意見を聴くことができ有意義だったともの凄く感じている。先ほど千葉議員から自分たちの活動が政治の入り口になっているという話を聴いて、高校のとき、ボランティア活動をすることが何度もあったが、ある意味、政治に関わっていたのだと今気づくことができた。政治という堅苦しいイメージがあるが、そうではなく活動することが大事であるという本日学んだことを小中学生にも伝えたい。

○井上さん

議会について、この会に参加する前は、遠い存在と見ていたが、本日、いろいろな話を聴くことができ、身近に感じることもできたし、議会で討論している場を見学できたことは率直に言ってよかった。小学校の社会科見学でも議会に来ることができたらよいと思う。自分は、今後、まちづくりの仕事をしようと思っており、その中で市議会、県議会の議員の方々と話す機会もあると思うので、その際は本日のこの場の経験を生かしたい。

○高橋さん

本日参加する前は、県議会は堅いところという感じがあったが、参加してみて、きちんと自分たちの話を聴いてくれたと思った一方、やはり政治は難しいと思った。家で家族から、オリンピックや国体の開催で技術者が都会の方に取られ被災地に土木関係の人材が集まらず復旧復興が進まないのではないかという話を聞いて、やはり人は流行りに流されてしまい、人は本当に必要なところには集まらないと思った。話題になっているニュースを取り入れることも必要だが、次々新しい話題

に流されるのではなく、一旦置いて調べてみることも必要だと思った。今日学んだこともそのまま流すのではなくて、またこのような機会もあるかもしれないのでそのときのために忘れないようにしたい。

○近藤さん

教育のお話があったが、皆さんの意見を聴いているうちに、政治家と公務員の違いを学校で教えた方がよいと考えるようになった。自分の周りでは官僚になって国を動かしたいという人は結構いるが、政治家になってという人はあまりいない。政治家になることが複雑な過程に見えることもあるが、乱暴な言い方をすれば、東京大学を出た優秀な官僚がいれば、政治家がいなくても日本は何とかなるという潜在意識がもしかしたらあるのかもしれない。でも、政治家と官僚は役割が違っていると思っており、そこをきちんと教えるべきと思う。また、政治家とはどういう職業かということをもっと赤裸々に教えた方がいいと思う。民主主義の政治家が汚いことはしょうがないことかもしれないと感じている。チャーチルは、民主主義は最悪の制度だが、それ以上のものはないというようなことを言った。メディアでも学校でも民主主義は素晴らしいものだという一方、その副作用はあまり語られていない。民主主義は多数決と言われているが、それはプロセスの問題であり、民主主義の本質は参加と自治だと自分は思っている。そうした民主主義について、いい部分も悪い部分も含め、また、そこにいる政治家がどのようなものか、そうしたことを教育で教えるべきだと思う。そして、実際の意思決定機関である議会も自己改革が問われていると思う。

○藤井さん

県議会はお堅いイメージしかなく、政治家に対して発言することに責任を感じており、どういうことを話そうか悩んでいたが、自分の思うことを伝えることができ、また、いろいろとお話を伺うことができとても満足している。普段、盛岡に住んでおり、特に困った問題もなかったが、本日の会を通じて、岩手の今の現状を知ることが重要だと思ったので、これからは、特別支援教育など自分の興味ある分野について今後どうしていけばよいか考えていきたい。

◆ 閉会

○福井座長

本日はたくさんの御意見をいただき感謝申し上げます。皆さんの考えていることをお聴きすることができたことはありがたかった。最後に、私から、皆さんには関心を持っていただきたいということをお話ししたい。私は、関心を持つことから自分たちの生活が変わっていくものと常に考えている。私も社会に出て様々なことに関心を持って政治と関わるようになり、今に至っている。先ほど藤井さんから盛岡に暮らしていて満足だとお話があったし、様々な方々と知り合って世界が広がったというお話があったが、それが政治家の役割だと思っている。もっともっと広い世界と自分たちを比較しながら、皆さんにいい生活・暮らしを提供していく、あるいは皆さんと意見交換しながら生活の質を高めていくことが我々の使命ではないかと思っている。ぜひとも皆さんも自分の暮らしから政治を見つめる、または自分の暮らしから社会に参画していくことを考えていただきたいと思うし、我々に対して御意見をいただければと思う。「関心」とは「関わる心」で、では何と関わるか、人、出来事、社会、組織、何でもいいが、その関わる心から自分たちが社会を変えるというモチベーションに繋がると思うので、県議会のみならず、市町村議会、国会に関わって御意見を言って、形にする行動力を持っていただければと思う。我々も本日皆さんからいただいた御意見をなんとか形にして皆さんにお返しするよう努力していく。

本日は、お忙しいところ、御参加いただき誠に感謝申し上げます。